

令和元年 日田市観光動態調査報告書

1 調査概略

この調査は、市内の主要な宿泊施設（37 施設）の宿泊者数及び、主要観光施設（43 施設）の来館者数、イベント・祭り来場者数などを調査したもの。

- ・令和元年の宿泊客数は、平成 30 年と比べ 0.5%減少した

（参考：対前年比の推移）平成 30 年△3.8%、平成 29 年 10.2%、平成 28 年 3.6%

- ・国内宿泊者数は、平成 30 年と比べ 10.9%増加した。

また、国内宿泊客の構成を発地別に見ると、福岡県からの宿泊客が最も多く（構成比 33.8%）、次いでその他九州（県内・福岡県除く）（構成比 16.5%）、大分県内（11.4%）となった。

- ・外国人宿泊客数は、平成 30 年と比べ 25.2%減少した。

また、外国人宿泊客の構成を国籍・地域別に見ると、韓国からの宿泊客が最も多く（構成比 62.3%）、次いで台湾（25.3%）、その他アジア（タイ・マレーシア等）（2.4%）となった。

- ・令和元年の主要観光施設（43 施設）の来館者数及びイベント・祭り来場者数は、平成 30 年と比べ 1.5%増加した。

【日帰り観光客の把握について】

これまで本市では、祭り・イベント来場者（目視）及び観光施設の入館者数等の累計値（①日田市観光統計）による日帰り観光客として公表してきた。

しかしながら、より実態に近い数値を継続的に把握していくため、R E S A S 滞在人口の基となるドコモの携帯データ（②モバイル空間統計）を活用し、2 か年にわたり調査を行ったところ、日田市観光統計の数値よりやや低い数値となった。

今後の日帰り観光客の数値としては、これまでの①日田市観光統計と③R E S A S 滞在人口の二つのデータを公表していくものとする。

①日田市観光統計 : 祭り・イベント来場者（目視）及び観光施設の入館者数等の累計

②モバイル空間統計 : 13 時から 14 時までの 1 時間単位の国内来訪者数に昼間時間帯（10 時～18 時）の訪日外国人数を加算。

※ドコモの携帯電波情報より推計

③R E S A S 滞在人口 : 10 時から 11 時まで及び 14 時から 15 時まで、20 時から 21 時までの 1 時間単位の滞在人口から、4 時から 5 時までの 1 時間単位の滞在人口及び 1 月 1 日現在の人口を除いたものに、昼間時間帯（10 時～18 時）の訪日外国人を加算。

※ドコモの携帯電波情報より推計。

	平成 29 年 (2017)	令和元年 (2019)
①日田市観光統計	3,368,401 人	3,266,415 人
②モバイル空間統計	2,831,327 人	2,736,309 人
③R E S A S 滞在人口	1,926,516 人	1,995,454 人

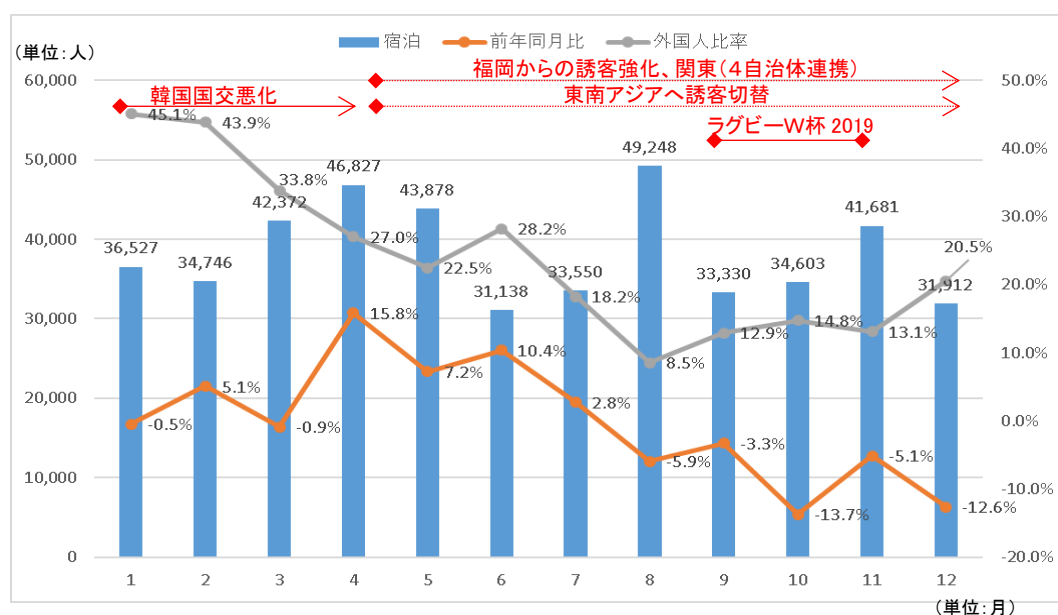
2 市内宿泊客の動向

令和元年の市内における宿泊客数は、平成 30 年と比べ 0.5%減少した。

減少の要因は、国交悪化により韓国人観光客が大幅に減少したことが考えられる。

しかしながら、国内観光客については、平成 30 年 7 月の J R 久大本線全線開通以降、福岡都市圏をターゲットとした誘客宣伝の強化により増加しており、外国人観光客についても、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の開催の影響で、欧米豪からの入込客は増加した。韓国の減少は著しいものの、インバウンド対策を、台湾をはじめとするタイやマレーシアなどの東南アジアへとウイングを広げた、市場開拓の効果は表れていると考えられる。

【図表 1】令和元年月別宿泊数



3 国内宿泊客数の動向

令和元年の国内宿泊客数は、平成 30 年と比べ 10.9%増加した。【図表 2】

月別に見ると 1 月、8 月を除き、前年を大きく上回った。【図表 3】

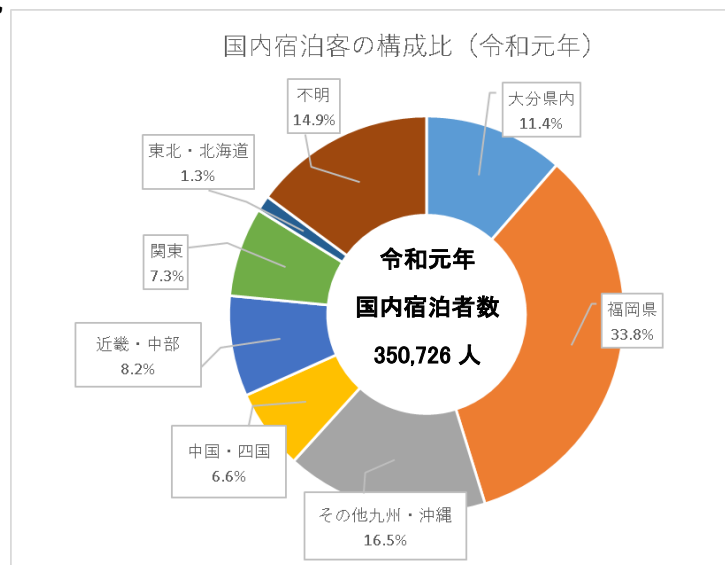
発地別に見ると、福岡県からの宿泊客数が最も多く 33.8%を占め、次いでその他九州・沖縄が 16.5%、大分県内が 11.4%の順となっており、近隣からの宿泊客が約 6 割以上を占める状況である。【図表 3】

発地別宿泊客数の対前年比を見ると福岡県、その他九州・沖縄、大分県内、東北・北海道、関東、近畿・中部、中国・四国の全てで前年を上回った。【図表 2】

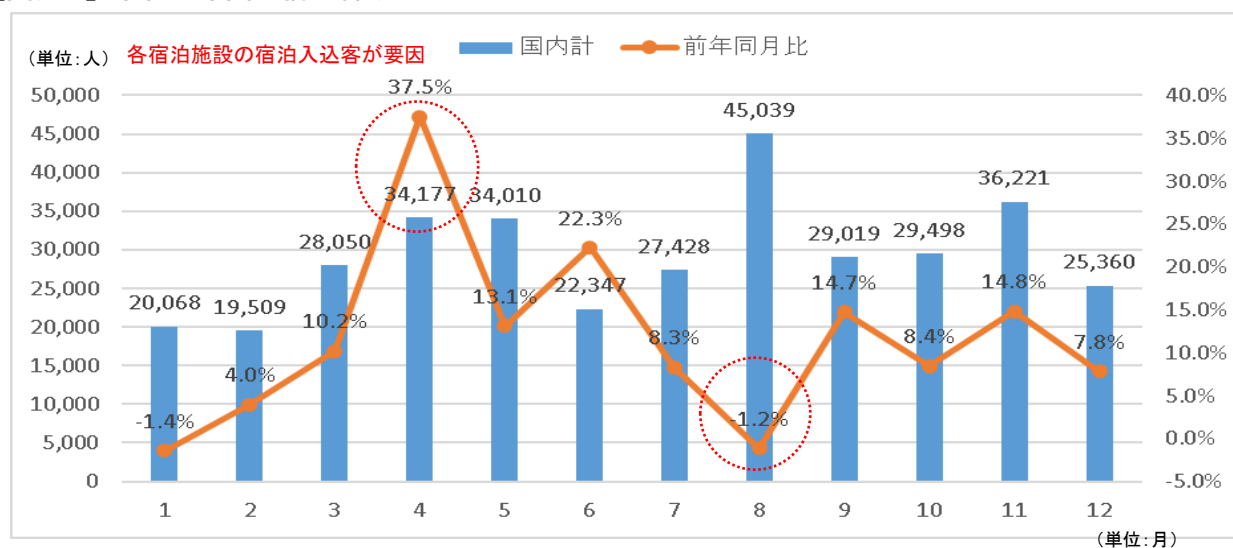
地区別宿泊客数は、旧日田市や天瀬町ではイベントが開催される 3 月、5 月、11 月期の宿泊客が多く、2 月、6 月、9 月は宿泊客数が低い傾向である。また、奥日田（大山町・前津江町、中津江村、上津江町）では、4 月、8 月の宿泊客が多く、12 月、1 月、2 月の冬季は宿泊客が低い傾向となっている。奥日田は比較的標高の高い自然豊かなエリアであり、春季～秋季にかけての宿泊は多く、梅雨期や積雪のある冬季の宿泊は少ないと考えられる。【図表 4】

【図表 2】国内発地別宿泊客数及び構成比

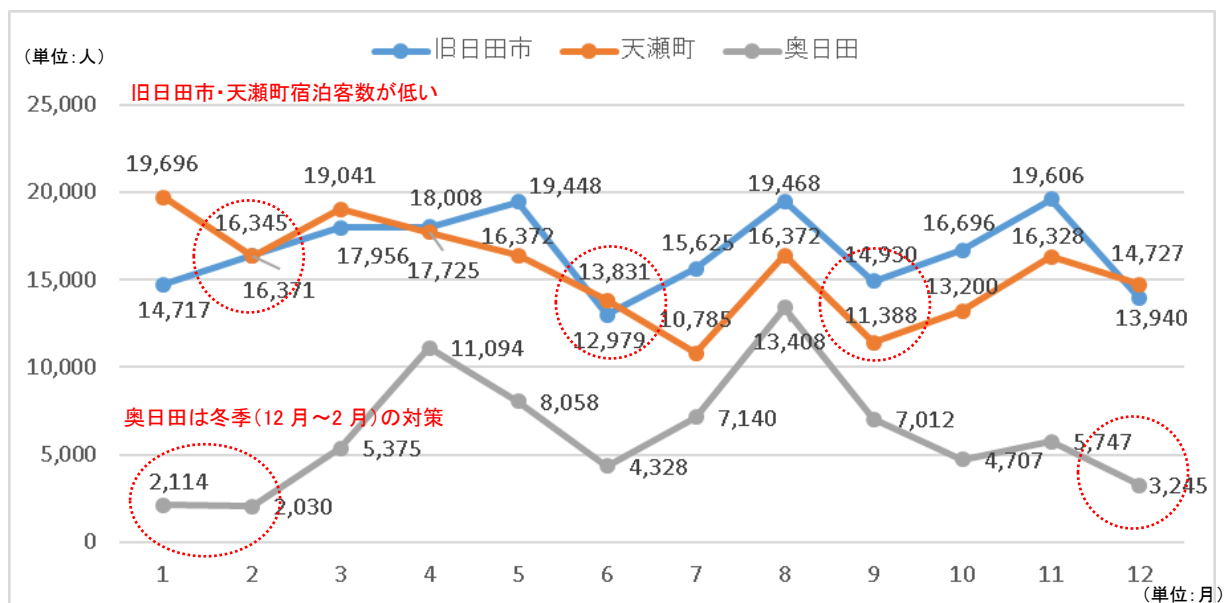
	宿泊客数 (人)	前年比 (%)
大分県内	40,069	+ 18.7
福岡県	118,521	+ 22.5
その他九州・沖縄	57,927	+ 18.1
中国・四国	23,034	+ 30.1
近畿・中部	28,774	+ 44.1
関東	25,646	+ 28.2
東北・北海道	4,533	+ 174.9
不明	52,222	▲32.5
国内計	350,726	+ 10.9



【図表 3】令和元年国内宿泊客数



【図表 4】令和元年地区別宿泊客数



4 外国人宿泊客数の動向

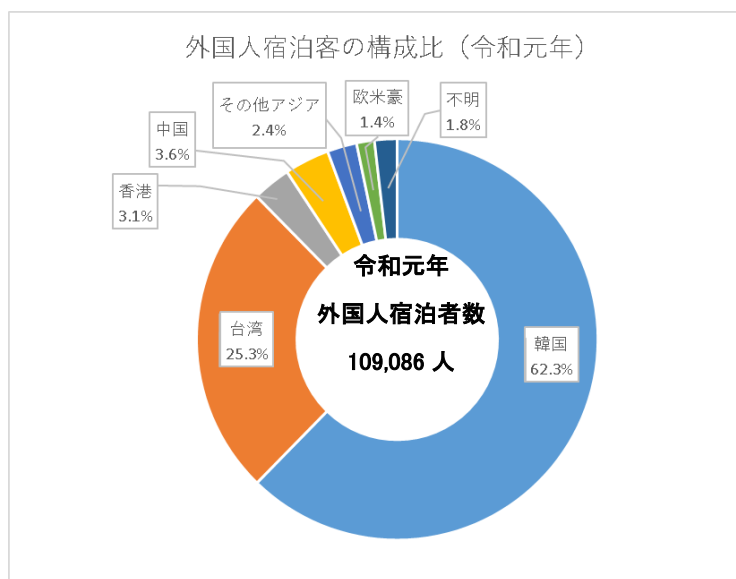
令和元年の外国人宿泊客数は、平成30年と比べ△25.2%減少した。【図表5】

月別推移を見ると、1月、2月を除き、それ以外の月で前年を下回った。【図表6】

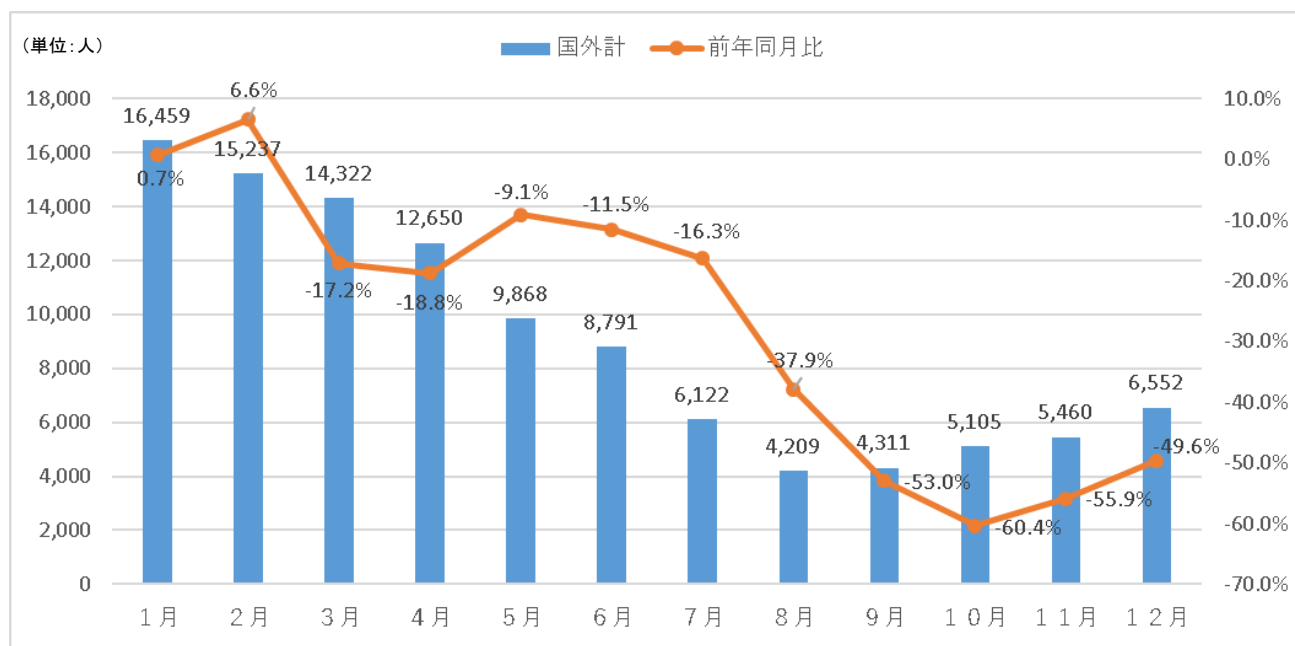
外国人宿泊客の国籍・地域別構成比を見ると、韓国からの宿泊客が最も多く、外国人宿泊客全体の62.3%を占める。次いで台湾、中国の順となっており、香港、タイ・マレーシア等のその他アジアを含めたアジア圏で約9割以上を占めている。【図表5】

【図表5】外国人発地別宿泊客数及び構成比

	宿泊客数 (人)	前年比 (%)
韓国	67,984	▲40.1
台湾	27,623	+28.4
香港	3,379	+43.1
中国	3,946	+111.1
その他アジア	2,601	+36.1
欧米豪	1,569	+76.3
不明	1,984	▲46.9
国外計	109,086	▲25.2



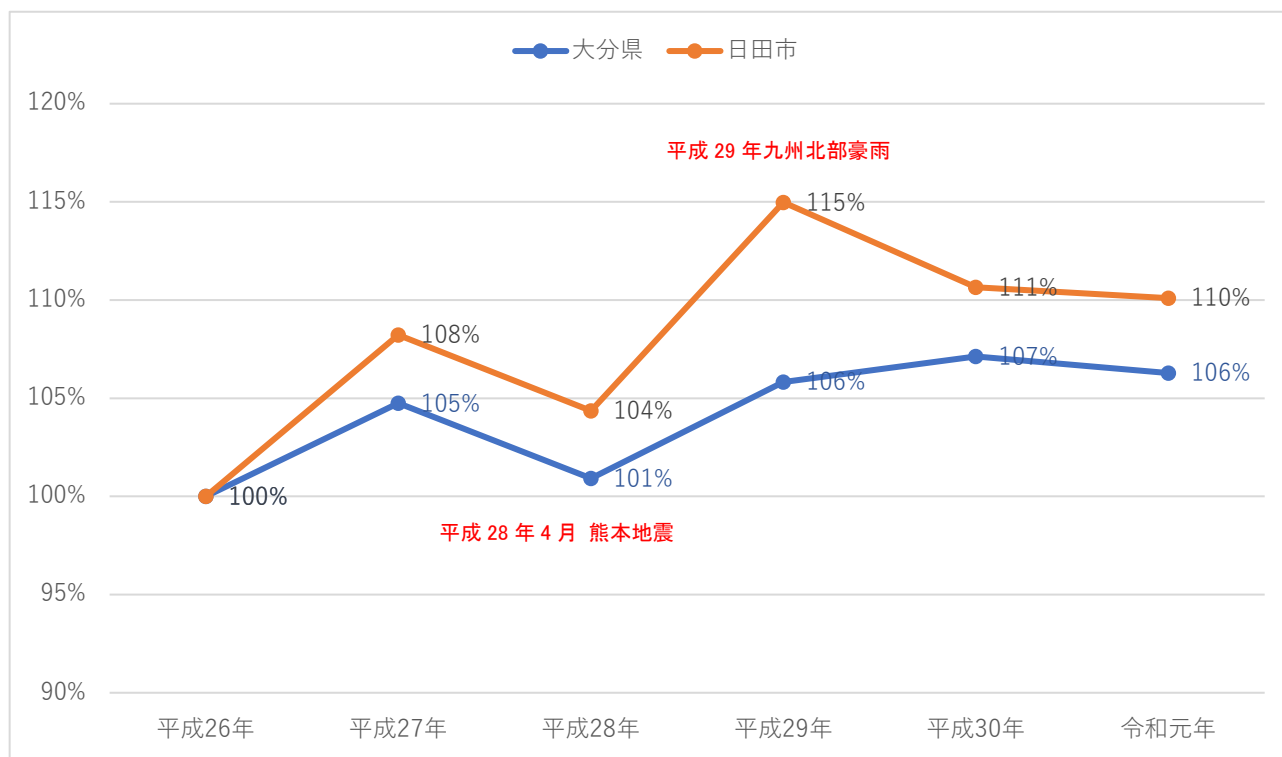
【図表 6】 令和元年外国人宿泊客数



5 宿泊客の増減

本市と大分県の宿泊客の増減率（平成 27 年から令和元年の 5 年間）を見ると、熊本地震の影響で平成 28 年の宿泊客数が著しく減少した。その後の災害からの復興キャンペーンやインバウンド対策により平成 29 年は急増したが、平成 30 年以降は減少傾向となっている。【図表 7】

【図表 7】 日田市・大分県の宿泊客の推移（宿泊客数の増減(平成 26 年比)）



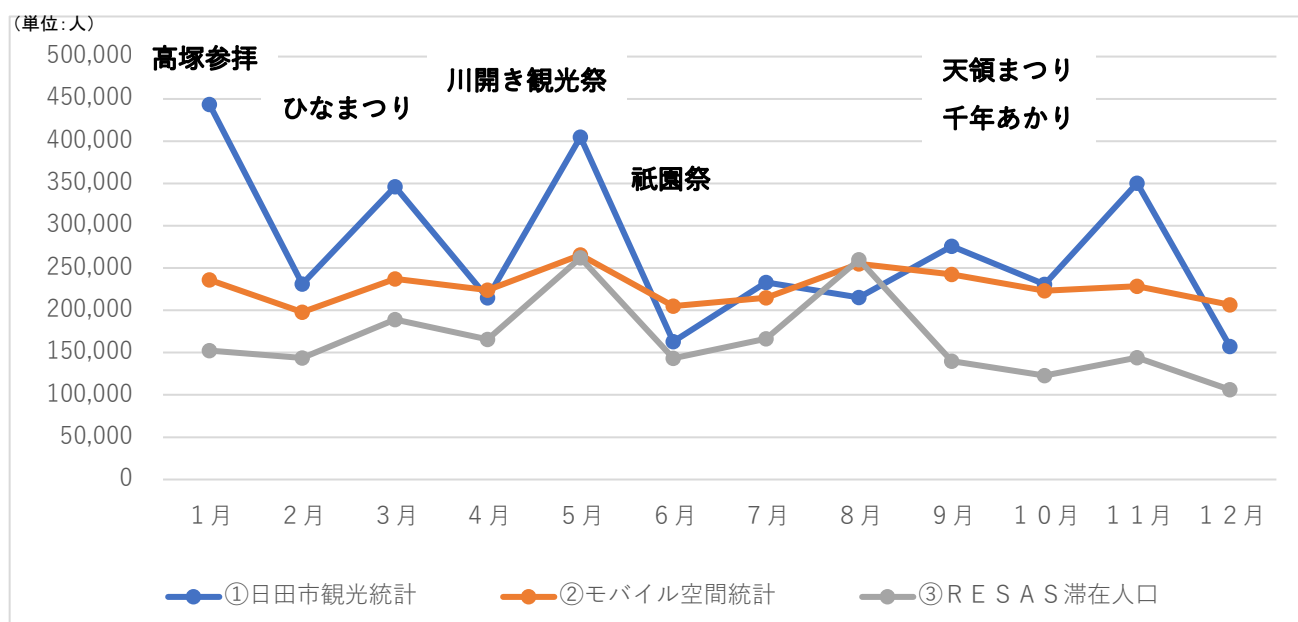
6 日帰り観光客の動向

本市は、福岡都市圏に近く、別府、湯布院へとつながる観光ルート沿いに位置しており、また、「日田やきそば」や「うなぎ料理」などの食の人気の高いため、昼食時間帯の滞在が多く見られる。

日帰り観光客の月別推移では、イベント開催月は多いが、雨の多い梅雨期や初秋にかけては減少する。イベントだけでなく、移り行く日田の四季を感じられる情報発信が必要と考える。【図表 8】

日帰り観光客数の年次推計は、平成 28 年以降ほぼ横ばいの数値で推移している状況であり、人気観光地である別府、湯布院への移動の際の立ち寄り地として定着していると分析される。【図表 9】

【図表 8】令和元年日帰り観光客数の月別推移



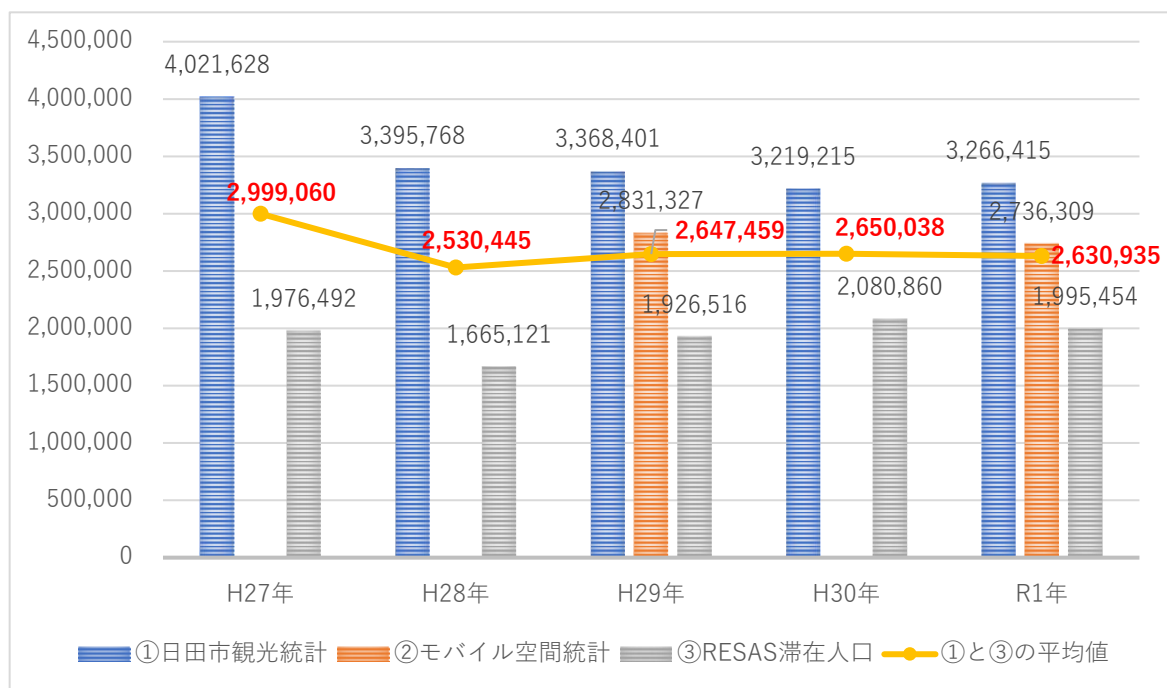
イベント時の来場者の推計：令和元年（2019）

日田市観光統計：目視により来場者を推計（市内住民もカウントに含む）

祭り・イベント等	日田市観光統計
高塚愛宕地蔵尊参拝 (1月)	1月は約 30 万人 2月以降は毎月約 5 万人
天領ひたおひなまつり (2/15～3/31)	108,000 人
日田川開き観光祭 (5/25～5/26)	118,000 人
日田祇園祭集団顔見世 (7/25)	16,000 人
日田祇園祭 (7/27～7/28)	48,000 人
日田天領まつり・千年あかり (11/9～11/10)	100,000 人

【図表 9】日帰り観光客数の推計値（日田市観光統計と RE S A S 滞在人口の平均値）

(単位:人)



日田市の日帰り観光客の推計値

平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和 1 年
2,999,060 人	2,530,445 人	2,647,459 人	2,650,038 人	2,630,935 人

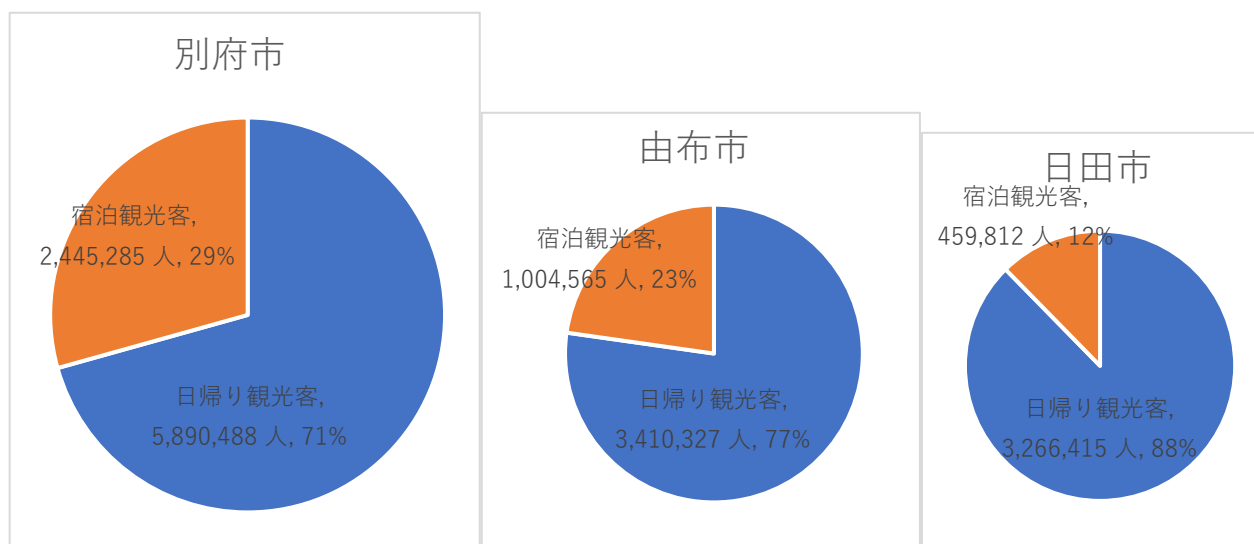
7 宿泊客と日帰り観光客の割合

本市の観光入込客の約 15%が宿泊客であり、周辺観光地と比較すると宿泊観光客の割合が少なく、県内宿泊を目的とした立ち寄り地となっている状況である。滞在時間を延伸し宿泊につなげる観光施策が必要と考えられる。【図表 10】【図表 11】

【図表 10】 宿泊客と日帰り観光客の割合

	日帰り観光客				宿泊客数
	①日田市観光統計	②モバイル空間統計	③RESAS滞在人口	①と③の平均値	日田市観光統計
H29年	3,368,401	2,831,327	1,926,516	2,647,459	480,172
H30年	3,219,215		2,080,860	2,650,038	462,075
R1年	3,266,415	2,736,309	1,995,454	2,630,935	459,812
	観光入込客（日帰り観光客＋宿泊客数）				
	①日田市観光統計	②モバイル空間統計	③RESAS滞在人口	①と②の平均値	
H29年	3,848,573	3,311,499	2,406,688	3,127,631	
H30年	3,681,290	-	2,542,935	3,112,113	
R1年	3,726,227	3,196,121	2,455,266	3,090,747	
	観光入込客における宿泊客の割合				
	①日田市観光統計	②モバイル空間統計	③RESAS滞在人口	①と②の平均値	
H29年	12%	15%	20%	15%	
H30年	13%	-	18%	15%	
R1年	12%	14%	19%	15%	

【図表 11】 他自治体との観光入込客の比較（令和元年）

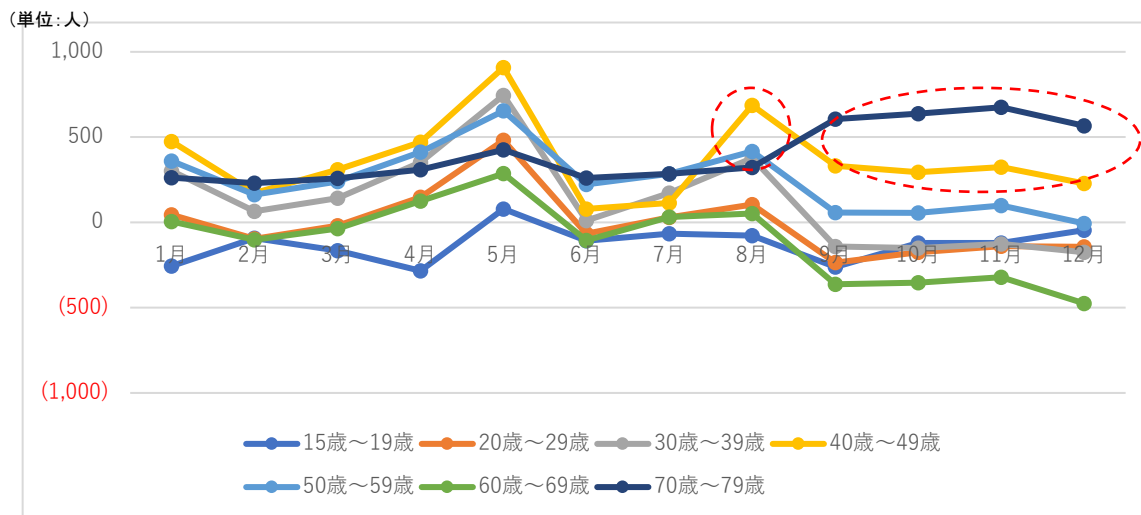


8 国内からの滞在人口の時間・性別・年代割合等

令和元年の本市の宿泊客（14 時現在滞在人口）は、全年代ともに 5 月（ゴールデンウィーク・川開き観光祭）が多く、8 月（夏休み）は、40 歳～49 歳が多く、9 月～11 月の秋にかけては、70 歳～79 歳が多い。【図表 12】

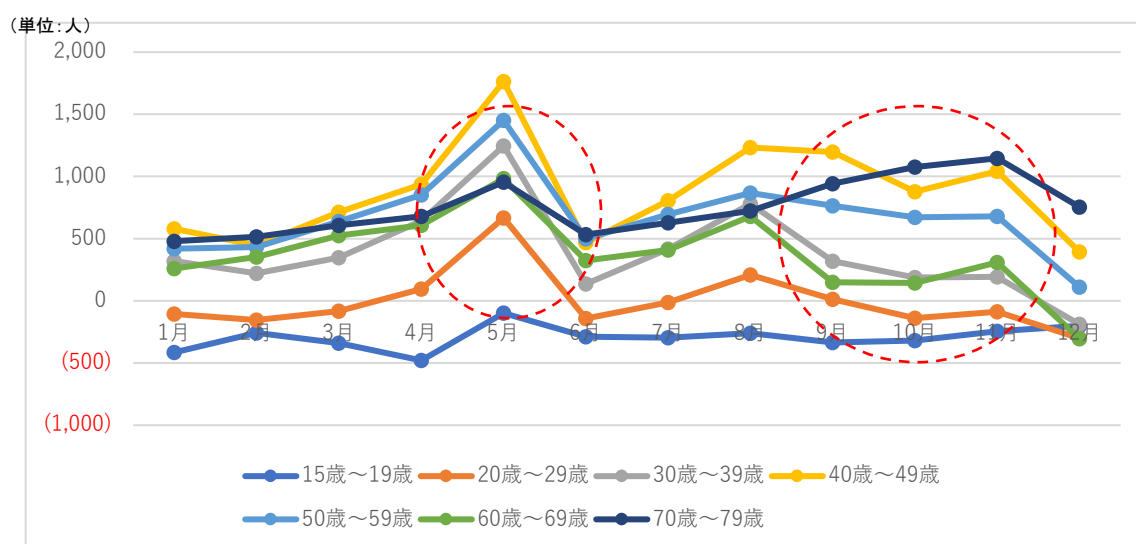
また、令和元年の日帰り観光客（14 時現在滞在人口）は、全年代ともに 5 月（ゴールデンウィーク・川開き観光祭）が多く、9 月～11 月の秋にかけて、40 歳～49 歳、50 歳～59 歳、70 歳～79 歳が多い。【図表 13】

【図表 12】 令和元年 14 時現在 1 日あたり滞在人口（休日）



※ R E S A S 1 日当たり滞在人口より令和元年 1 月 31 日現在人口を差し引いた数値。

【図表 13】 令和元年 14 時現在 1 日あたり滞在人口（休日）



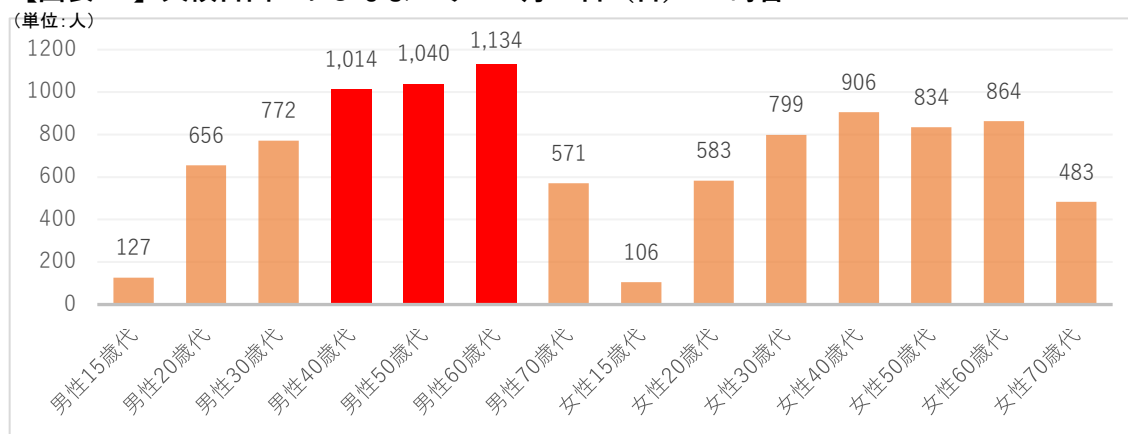
※ R E S A S 1 日当たり滞在人口より令和元年 1 月 31 日現在人口を差し引いた数値。

9 祭り・イベントにおける国内観光客の年代・性別特性（令和元年調査）

1) 天領日田のおひなまつり

40 歳代から 60 歳代の男性の来場が多い。各祭り・イベントの中では比較的年齢層が高い。【図表 14】

【図表 14】天領日田のおひなまつり：3 月 3 日（日）13 時台



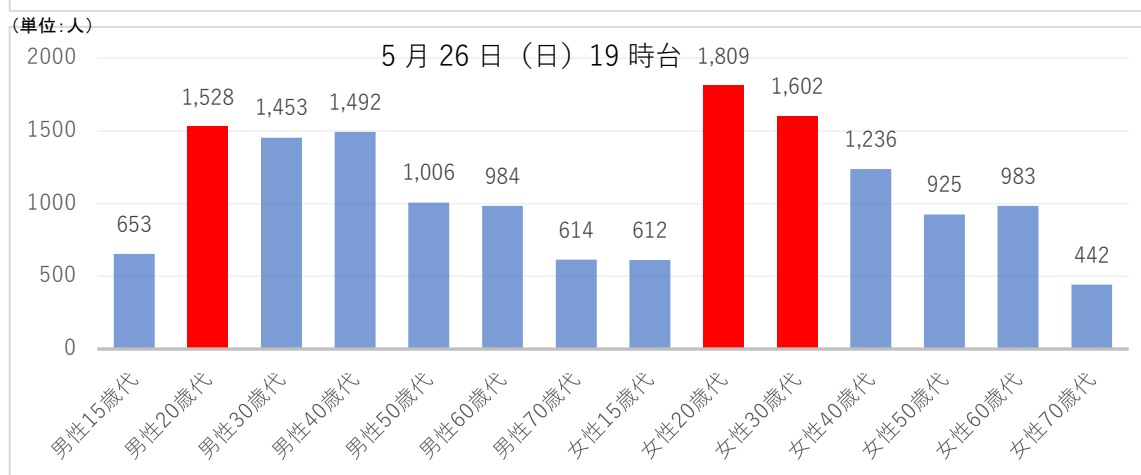
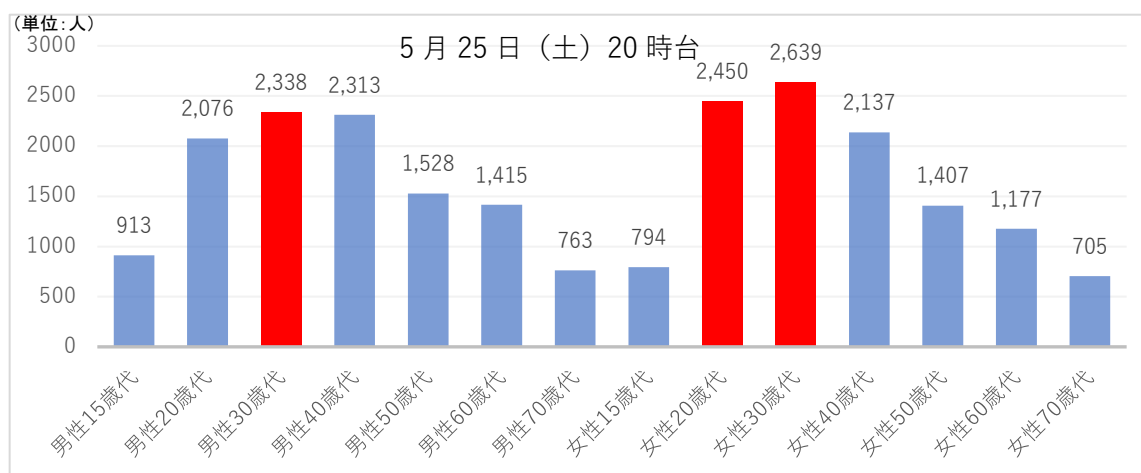
モバイル空間統計 2019 年調査

2) 日田川開き観光祭

20 歳代から 20 歳代の若い人の参加が多い。各祭り・イベントの中では比較的若い年代の参加が多い。

【図表 15】

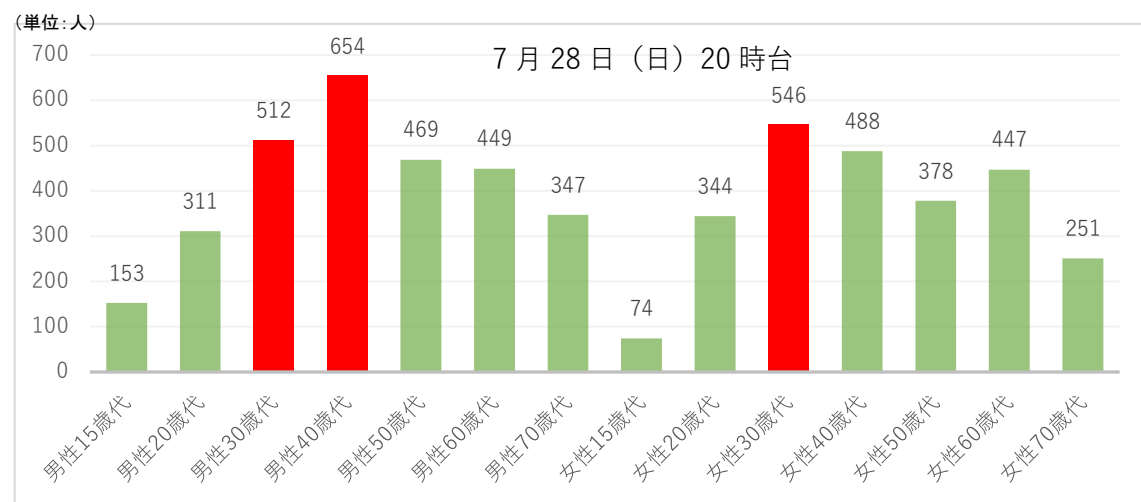
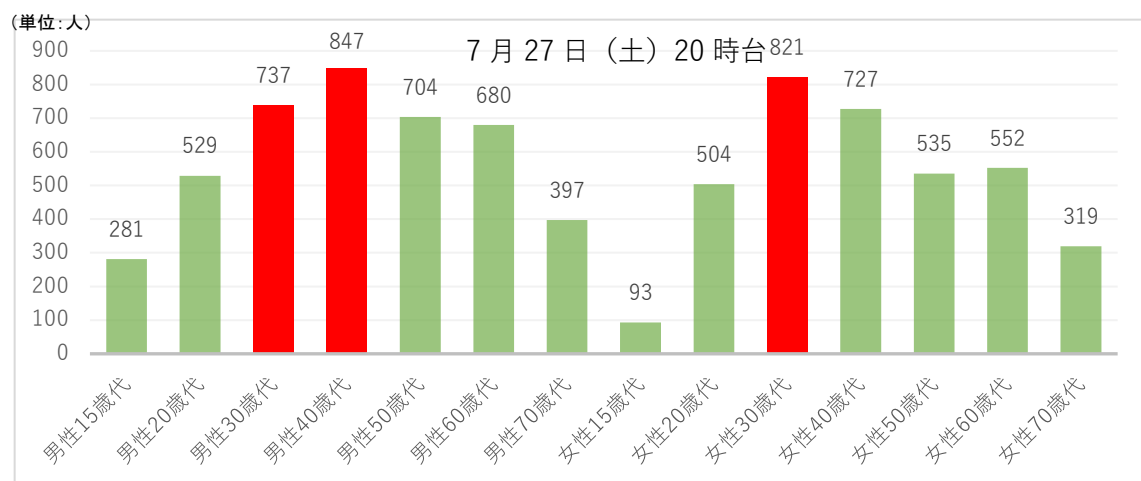
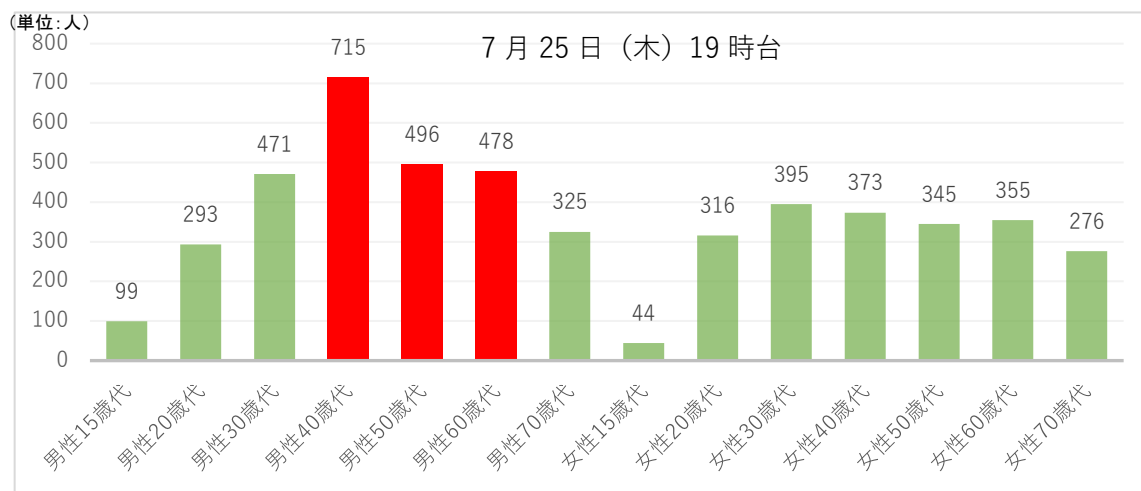
【図表 15】日田川開き観光祭：5 月 25 日（土）20 時台、5 月 26 日（日）19 時台



3) 日田祇園祭集団顔見世及び曳山行事

平日に開催される集団顔見世は、40 歳代～60 歳代の男性の参加が多く、週末開催の曳山行事は 30 歳代～40 歳代の男女が多い。【図表 16】

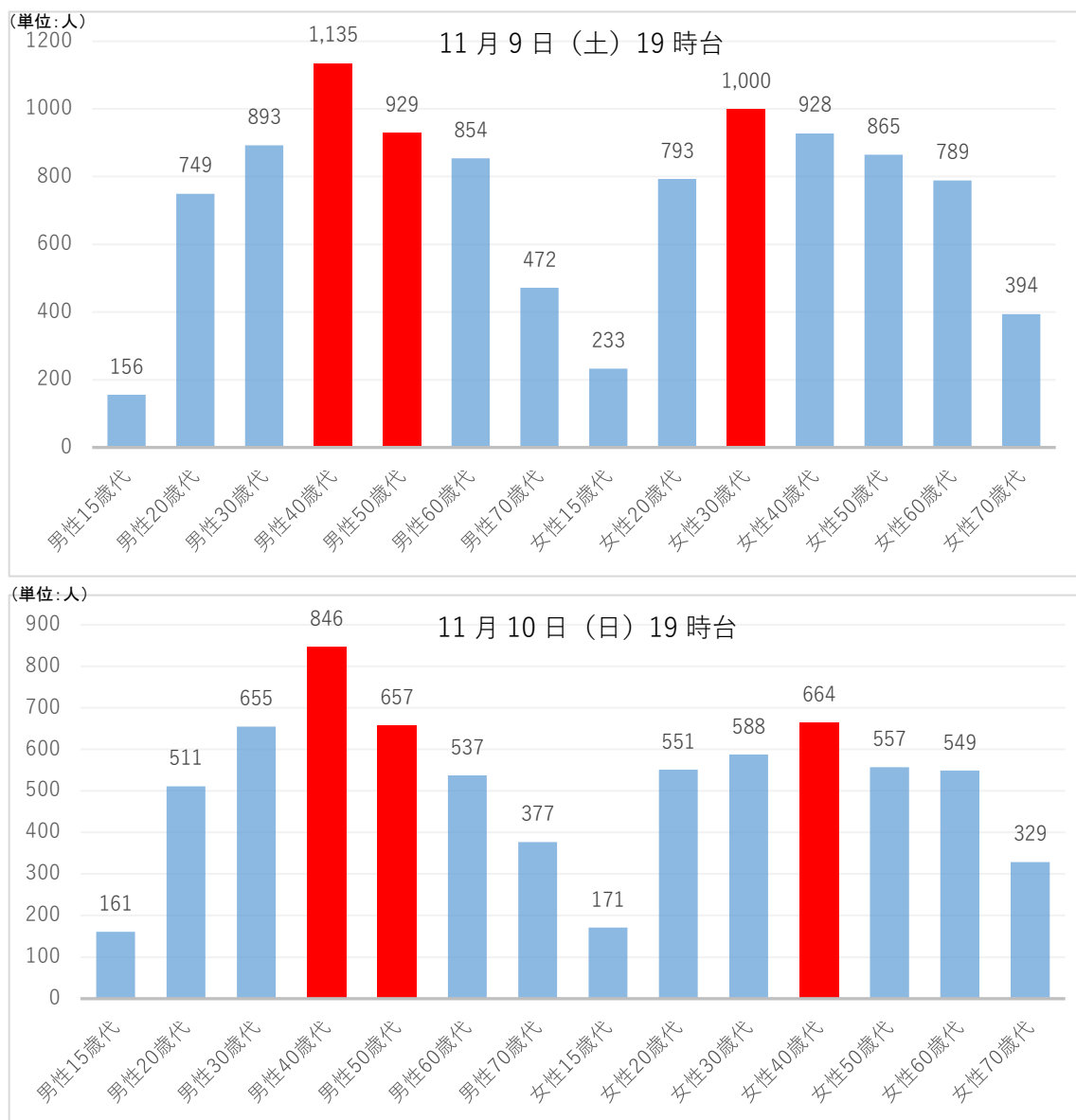
【図表 16】日田祇園祭集団顔見世及び曳山行事：7 月 25 日（木）19 時台、7 月 27 日（土）20 時台、7 月 28 日（日）20 時台



4) 日田天領まつり・千年あかり

男性は 40 歳代～50 歳代の参加が多く、女性は 30 歳代～40 歳代の参加が多くなっている。【図表 17】

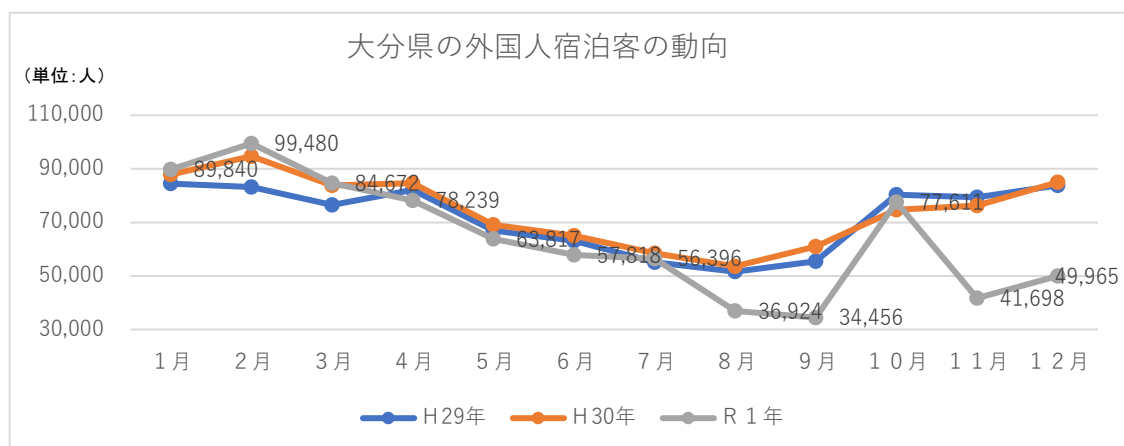
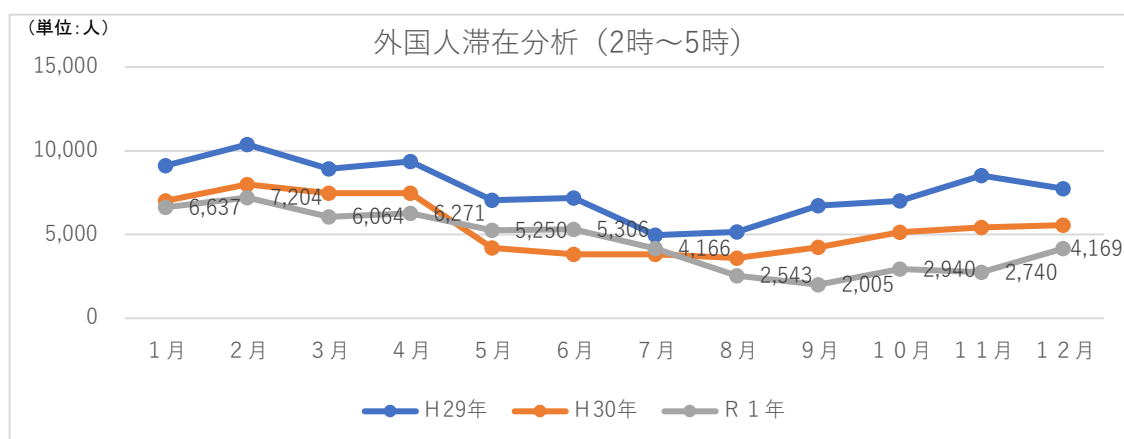
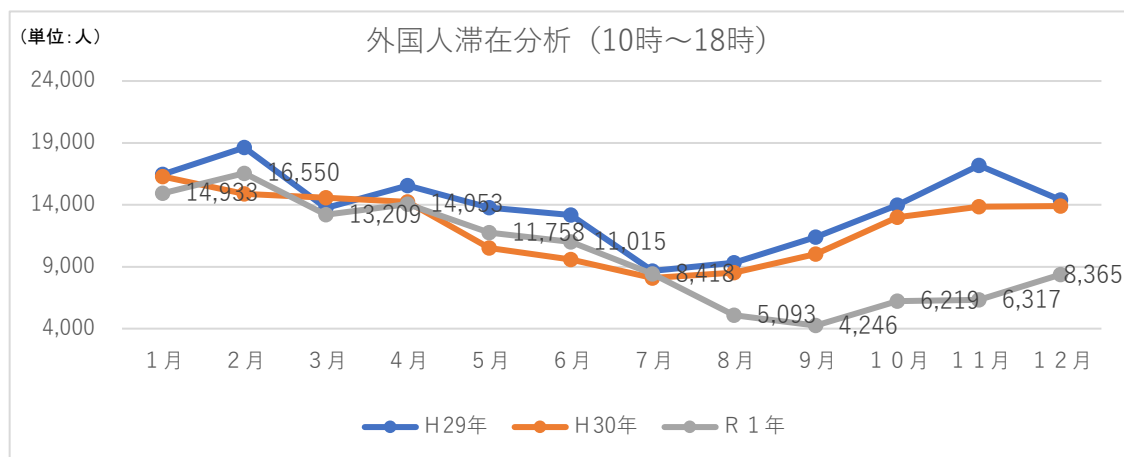
【図表 17】日田天領まつり・千年あかり：11 月 9 日（土）19 時台、11 月 10（日）19 時台



10 外国人の昼夜別滞在者数

外国人観光客の滞在分析を見ると、中国、中華圏における旧正月や紅葉の季節の入込が多く、夏場はやや少ない。韓国との国交悪化により夏場で、大きく減少している。大分県の外国人宿泊客 10 月の伸びは、ラグビーワールドカップ開催による。【図表 17】

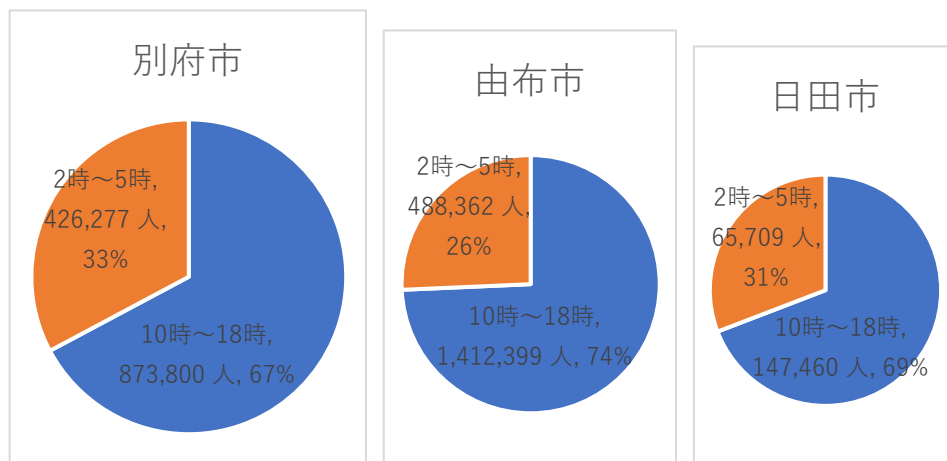
【図表 17】 外国人の昼夜別滞在者数：R E S A S、大分県観光統計調査



11 他自治体の外国人滞在者の割合

平成 30 年の外国人滞在者数は、周辺観光地と比較すると 20%以下と少ないものの、時間帯別の割合でみると 2 時～5 時（宿泊外国人）は約 30%と同等の割合を占めることが分かった。【図表 18】

【図表 18】 他自治体との外国人滞在者の比較（平成 30 年）



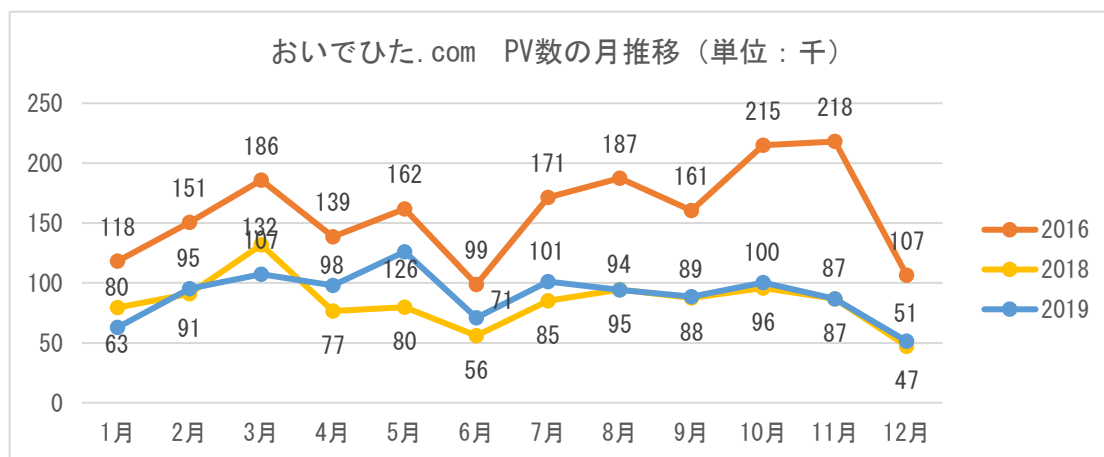
（R E S A S 2018 年データ）

12 日田市観光協会ホームページのアクセス状況

3 月、5 月、7 月、11 月と大きなイベントや祭のある 5 月や長期連休がある 8 月に高い傾向にある。

【図表 19】

【図表 19】 ページビュー（PV）数の年推移



※2017（平成 29）年～2018（平成 30）年にかけて、管理サーバーの不具合が発生したため、2017（平成 29）年の数値は除いている

12 観光消費額と経済波及効果

1) 観光消費額（推計）

令和元年の観光消費額：306 億 8,100 万円

令和元年の旅中アンケート調査から得られた本市 1 人当たり観光消費額と大分県の発表する県内の 1 人当たり観光消費額を比較すると、日帰り旅行での観光消費額は大分県よりも高い数値であるが、宿泊旅行は低くなっている状況であった。

また、1 人当たり観光消費額から算出した令和元年の観光消費額は 306 億 8,100 万円となった。

①令和元年 旅中アンケート調査結果（2019 年）から推計する 1 人当たりの観光消費額及び大分県観光実態調査報告書からみる大分県内での 1 人当たり観光消費額

	日田市内	大分県内
日帰り旅行	7,081 円	5,998 円
宿泊旅行	26,208 円	41,664 円

②日帰り観光客推計値及び市内宿泊客数から算出する観光消費額

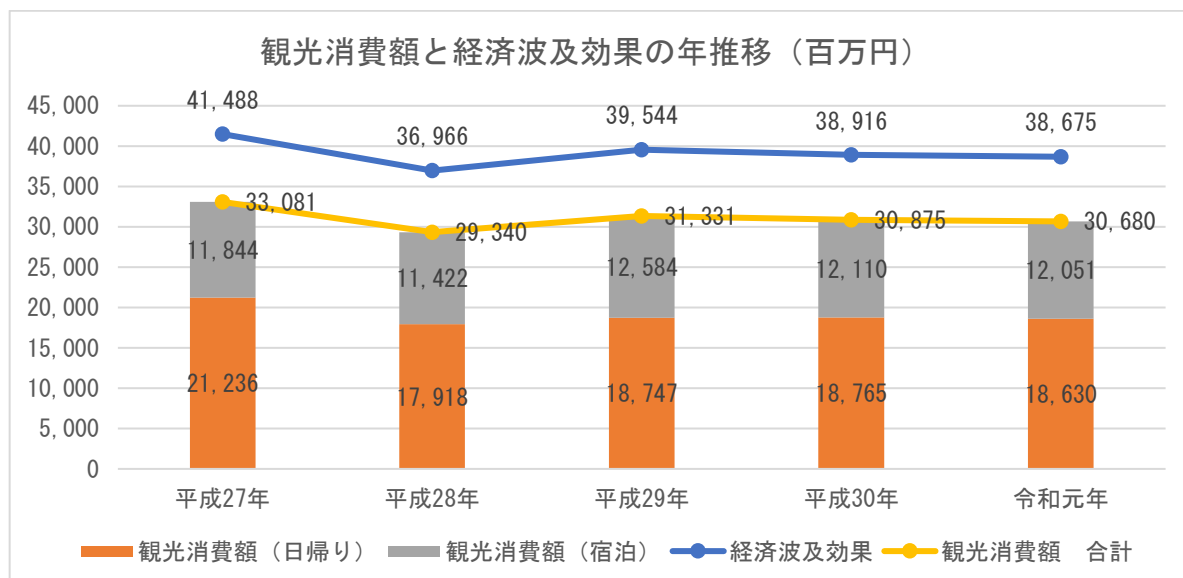
令和元年	入込客数	観光消費額（推計）
日帰り観光客	2,630,935 人	186 億 3,000 万円
宿泊観光客	459,812 人	120 億 5,100 万円
（合計）	3,090,747 人	306 億 8,100 万円

※日田市の観光消費額を算出する上での観光入込客数は、日帰り観光客は、日田市観光統計と R E S A S 滞在人口の平均値、宿泊客数は日田市観光統計の数値を使用する。

2) 令和元年の経済波及効果（生産誘発額）

令和元年総合効果：386 億 7,500 万円

観光消費額については、過去 5 か年で最も高い平成 27 年と比較し、令和元年は減少しているものの約 300 億円をキープしている。また、経済波及効果については、令和元年で 386 億円となった。【図表 20】



※平成 23 年（2011 年）「大分県産業連関表 経済波及効果分析ツール 与件データ作成ツール」を使用し、一人当たり観光消費額は令和元年の旅中調査結果の（日帰り旅行 7,081 円、宿泊旅行 26,208 円）を使用し算定した。